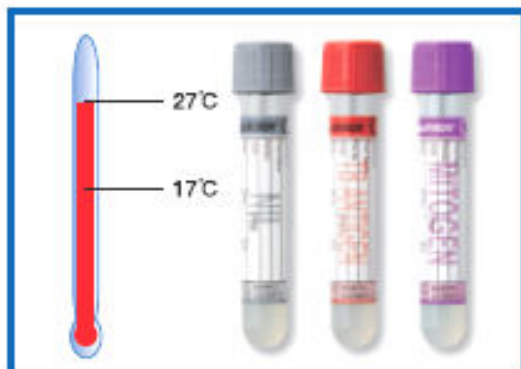
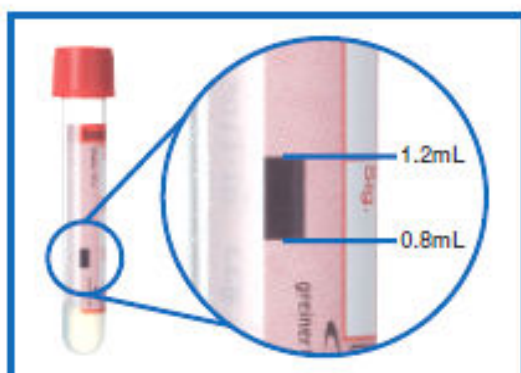


## クオンティフェロン<sup>®</sup>TBゴールド用採血管 使用方法



- 被検者1人(1検体)に3種類の採血管(灰色、赤色、紫色)を使用。
- 採血管は室内温度(22±5℃)になってから使用する。
- 採血前に採血管のゲル部分を手で握るなどして温めないこと。



- 各採血管に規定量(1mL)を採血する。
- 規定量の血液が採血されたことを確認する(採血量が0.8~1.2mLの範囲であれば、検査結果に影響がない)。

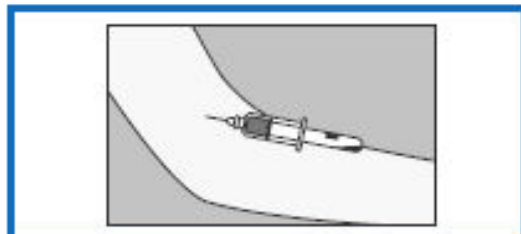
※ 採血管は、血液各1mℓ



### 採血方法

の順番で採血して下さい。

- 採血管に真空採血管用ホルダーから直接採取する。



### その他の採血方法

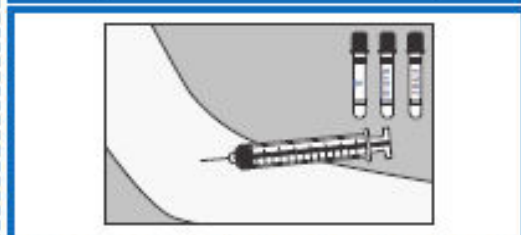
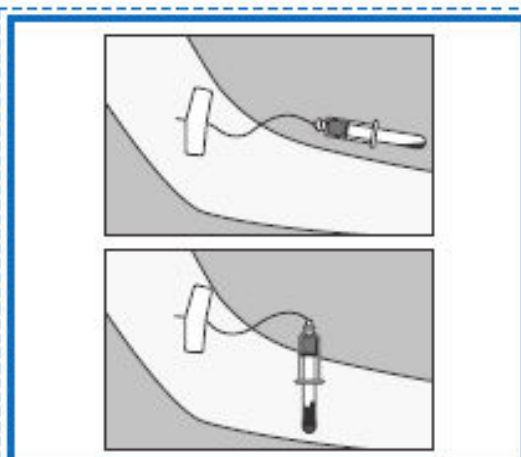
〈翼付針チューブを使用して採血する場合〉

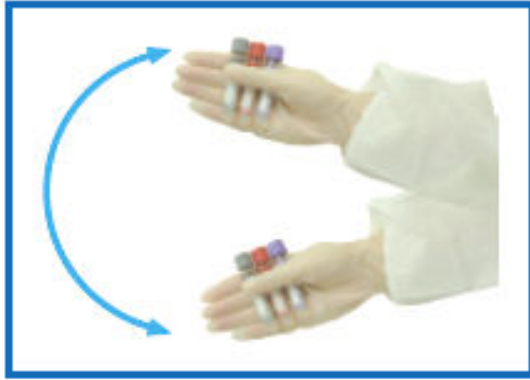
- 採血管で採血を開始する前に市販の一般的な真空採血管を用いてチューブ内の空気を抜き、チューブに血液が満たされていることを確認する。

- 採血管を立てた状態にし、規定量が採血された時に採血管をはずす。

〈シリンジ採血後、採血管に分注する場合〉

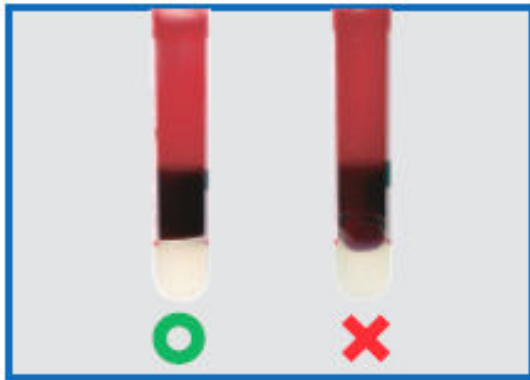
- 針刺し事故及び血液凝固に十分注意し、それぞれの採血管に規定量を分注する。





●採血後、採血管を上下に5秒間又は10回振って混合する。

- 強い振りすぎに、ご注意ください。
- 凝固している検体は、検査不可です。
- 採血後の検体は、17℃～27℃で保存して下さい。



●採血管の内表面全体が血液で覆われていることを確認する。

●強く振りすぎると分離剤の成分が血液と混ざり、誤った結果になることがある。

- 採血後の血液検体は、出来るだけ早く（採血後16時間以内に）37℃のインキュベーターに入れなければならない。
- 培養前の採血管は、22±5℃に保存する。これ以外の温度で保存すると誤った結果になることがある。血液検体は冷蔵又は冷凍してはならない。
- 採血後、血液をすぐに培養できない時は、培養直前に再度採血管を上下に5秒間又は10回振ること。
- 本品の使用に関しては、クオンティフェロン<sup>®</sup> TBゴールド用採血管の添付文書を確認すること。

お問い合わせ先

日本ピーシージー製造株式会社 カスタマーセンター  
〒112-0006 東京都文京区小日向四丁目2番6号  
TEL (03)5800-5311

外国特例認証取得者及び製造元  
celestis セレスティス リミテッド(オーストラリア)



お問い合わせ先

株式会社 岡山医学検査センター

☎ 086-427-2323

選任製造販売業者

日本ピーシージー製造株式会社